

(資料 2)

薬剤師届出票を用いた薬剤師の職種の経年調査

# 薬剤師届出票を用いた薬剤師の職種の経年調査

薬剤師法第9条により、薬剤師は住所、性別、生年月日、登録年月日や業務の種別などを記入した薬剤師届出票を2年に1回届け出る。届出票情報の利用について厚生労働大臣の承諾を得て、2004年から2020年までの薬剤師届出票データの提供を受け、薬剤師登録番号を指標に薬剤師が従事する職種の経年的な変遷を調査した。

(図1) 80.3～86.3%の病院薬剤師は2年後も病院薬剤師を続けていた。各調査時点において、12.2～8.5%の病院薬剤師が2年後に退職しており、7.4～5.2%の病院薬剤師は所在不明となっていた。

(図2) 病院薬剤師を辞めた薬剤師の69.6～72.7%は薬局に転職していた。

(図3) 病院薬剤師の経験年数別の薬局転職者数の実数を示す。

(図4) 図3の退職者数を各群の経験年数幅で除して表すと、経験年数5年以下で薬局へ転職する病院薬剤師が多い傾向が確認された。

(図5) 病院薬剤師の薬局への転職者数を年齢別にみると、調査期間を通して20代が最も多数を占め、次いで30代前半であった。

以上の結果から、薬剤師届出票データを用いて薬剤師の職種を経年的に調査できることが確認された。今後さらに、性別の影響等を検討し、潜在薬剤師数の推計に役立つ情報の抽出を試みる予定である。

図1. 病院薬剤師数と2年後の退職率

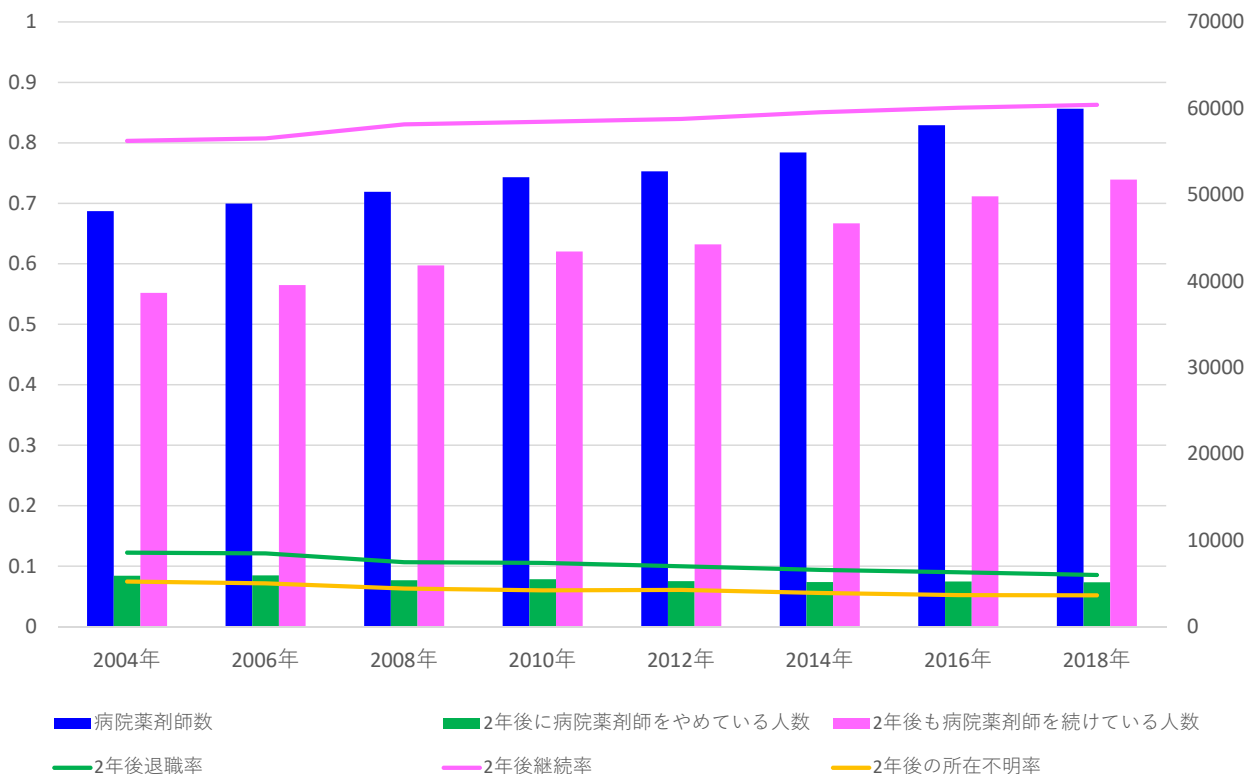


図2. 2年後の転職先

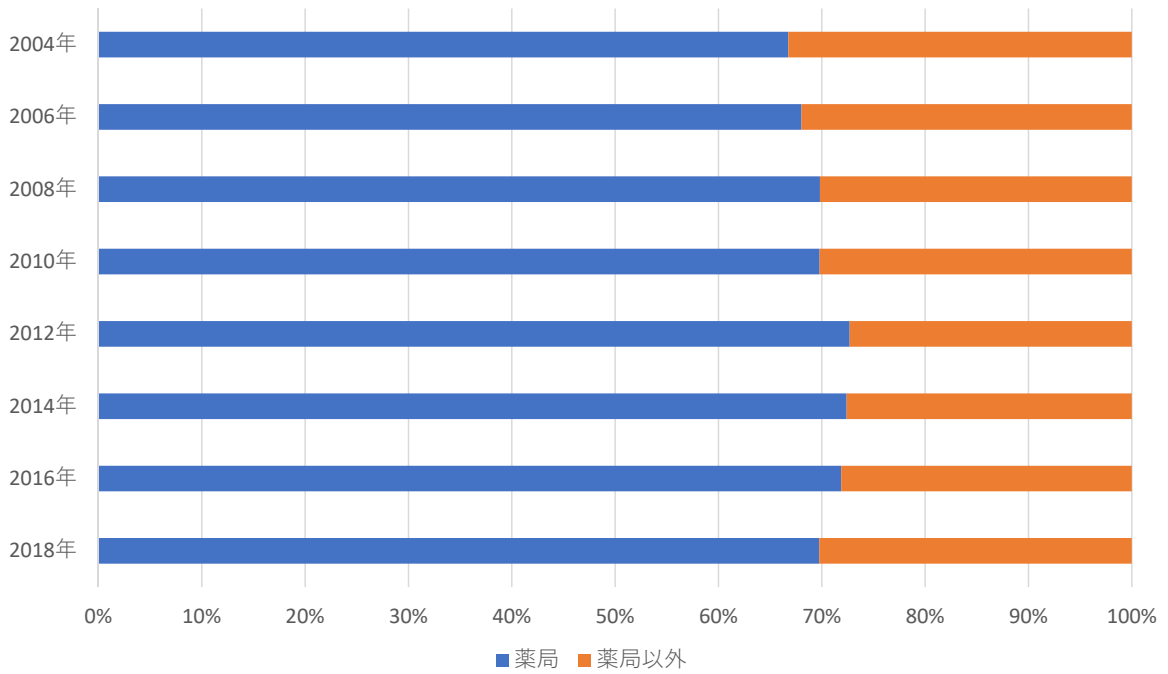


図3. 病院薬剤師の経験年数別薬局転職者数（実数）

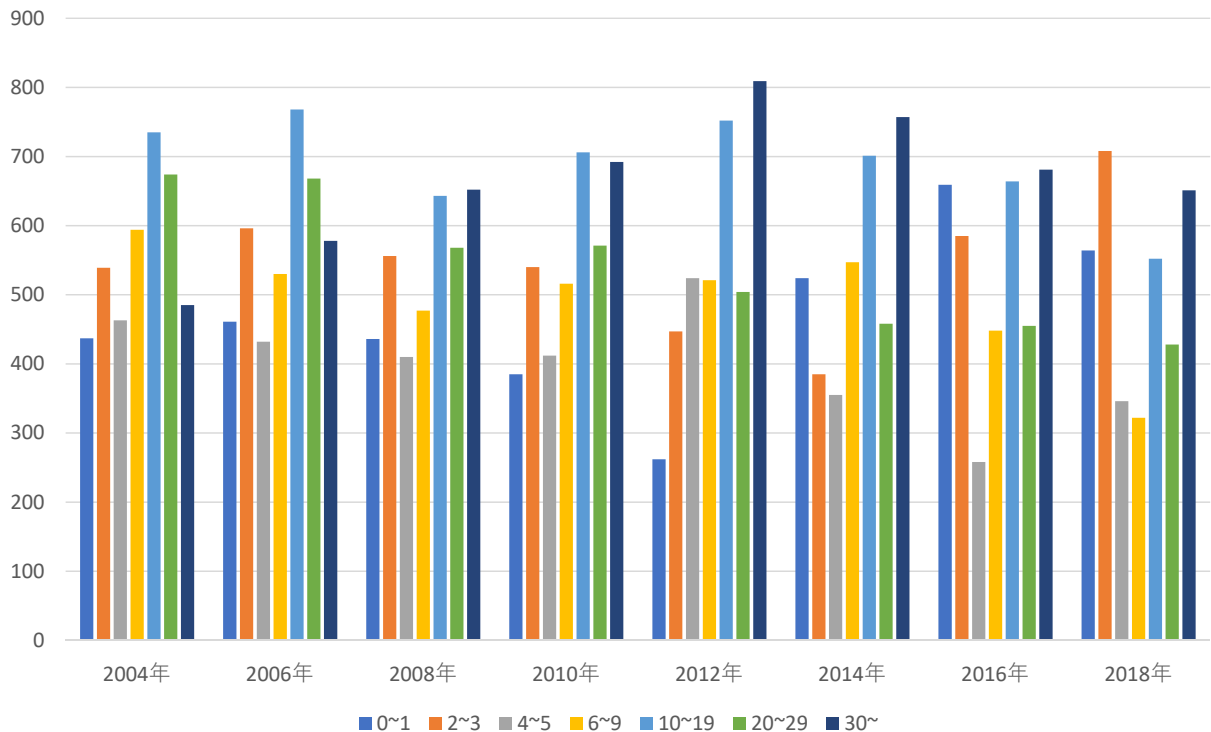


図4. 病院薬剤師の経験年数別薬局転職者数

(年あたり、40年目以降は実数)

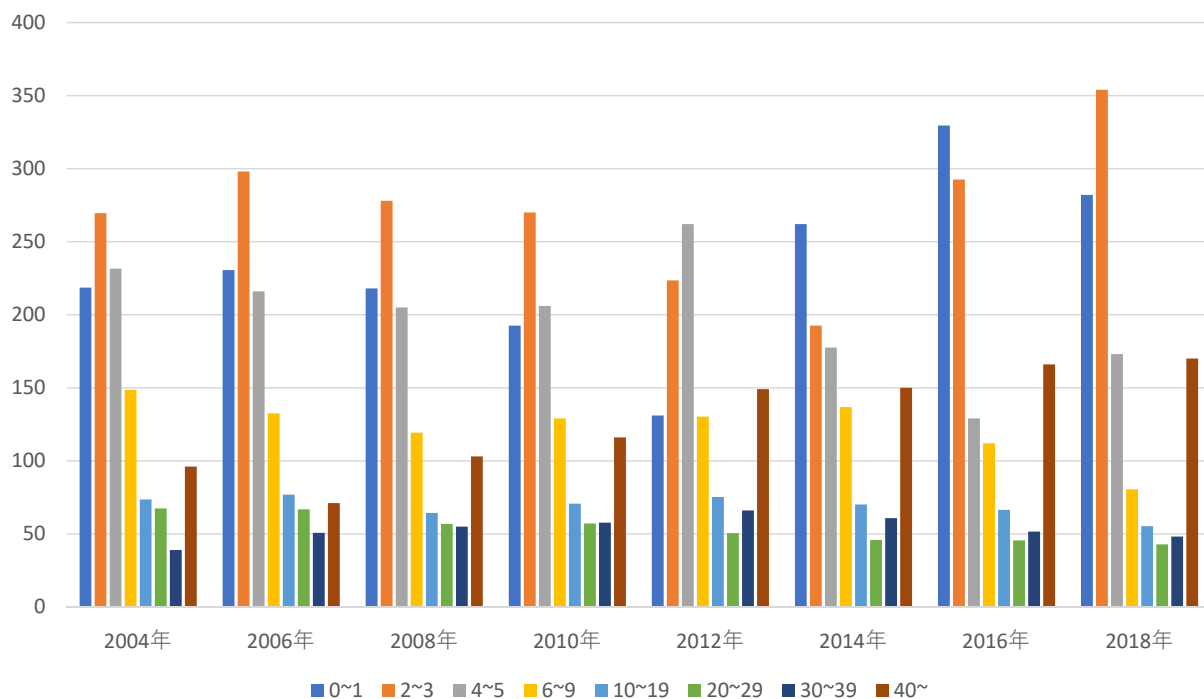


図5. 病院薬剤師の年齢別薬局転職者数 (実数)

